

CYCLE

消費者運動ニュース No.1210 2025年 8月25日

発行所 全大阪消費者団体連絡会
〒540-0026 大阪市中央区内本町2丁目1番19-430
TEL.06-6941-3745 FAX.06-6941-5699
<https://osakacon.org/>

発行人 全大阪消費者団体連絡会
印刷 株式会社 耕文社

個人購読料 年間 5,000円(送料込み・消費税別)
購読料送金先 (口座名・全大阪消費者団体連絡会)
郵便振替口座 00900-9-8320
三井住友銀行天満橋支店 普通預金口座 0969062
近畿労働金庫大阪中央支店 普通預金口座 1161622

戦後・被爆80年

ヒロシマ・ナガサキを訪れて —未来へつなぐメッセージ

ヒロシマとナガサキに原子爆弾が投下されて80年という節目の8月6日、9日にかけて、おおさかパルコプの平和の取組に同行し、両市を訪れた。

原爆ドームや平和公園、平和記念資料館や国立原爆死没者追悼平和祈念館等は、私たちに多くのことを語りかけ、これからの未来へ向けた大切なメッセージを知る機会となった。

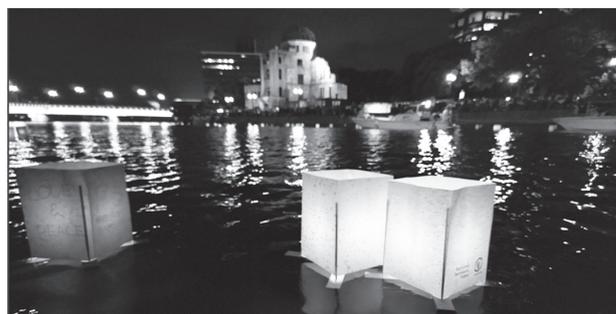
被爆地に赴いて

広島平和記念資料館では、当時を伝える様々な写真や遺品、そして壁一面に展示された犠牲になった方々の名前や生い立ちが、一人ひとりにかけてがない人生があり、未来があったことを訴えかけている。人間の尊厳、平和への切なる願いを継承し、二度とこのような悲劇を繰り返してはならないとの願いが心に深く刻まれた。

被爆地は訴える

「平和宣言」では、どちらの市長も被爆者たちの生きた証しの声(想い)を引用し、被爆者の体験に基づく平和への思いを伝えていくことの大切さを訴え、「自分よりも他者の立場を重視する」「相手を知り、互いに理解し、小さな信頼を重ねていく」ことが平和への一歩だと呼びかけた。

80年前の夏、一瞬にして多くの命と生活が奪われた。それは、単なる過去の出来事ではなく、今現在そして未来にも影響を及ぼしうる現実として、私たちは重く受け止め続けなければならない。被爆者たちの平均年齢は86歳を超え、生存者が10万人を切った。唯一の戦争被爆国として今すべきことは何かを日本政府に問う平和宣言である。



元安川での灯ろう流し(後方は原爆ドーム)

被爆国として核兵器の禁止・廃絶を

世界に目を向けると、核兵器の脅威は依然として高く、核軍縮の流れが停滞し、一部では逆行する非常に不安定な局面にある。三度、「過ちを繰り返さない」ためには、ヒロシマ、ナガサキの被爆者が発信する核兵器廃絶と世界恒久平和の声を受け止め、核抑止に頼らない政策へ転換するほかはない。日本政府は一日も早く、核兵器禁止条約へ署名・批准すべきである。

未来の子どもたちに青い地球を手渡すことができるように、私たち一人ひとりが、核兵器廃絶に向けた平和への意識を常に持ち続け、学び、考え、行動することを呼びかける。

主な内容	戦後・被爆80年 ヒロシマ・ナガサキを訪れて … 1
	なにわフードバンク「しっかり食べや」設立 …2~3
	学習会報告
	「なぜデジタル・SNSにだまされるのか」 …4~7
	2025年消費者白書—消費者被害 9兆円 ……8~10
	学習会・イベントのお知らせ ……11
ニュースピックアップ ……12	